

○議長（武石善治） 一般質問を行います。次に、5番、萩野芳紀君の発言を許します。5番、萩野君。

（5番 萩野芳紀議員 一般質問席登壇）

○5番（萩野芳紀） それでは質問いたします。

村長のスローガンにあった住、暮、楽、夢村スクラムについてお伺いいたします。

村長就任以来2年がたちました。まもなくターニングポイントに入ります。

この質問は、一昨年の12月議会でもスクラムのスの部分については質問しておりますが、今回はスクラム全部について質問いたします。

選挙戦で訴えていた公約あるいは施政目標と言っていいのかもしれませんが、ス、ク、ラ、ムという4つの項目を挙げていましたが、それにつきまして質問いたします。

まず私なりに判断しました公約、スクラムなのですが、住むの部分、これは生業、雇用創出、雇用の場を創り出し、そのために村の財産である山の恵みをいかした村産物のネット販売、道の駅における販売も含めて、村民各自が農産物等、自慢の品を生み出す1人1坪運動の奨励。

次は暮らす、安心して暮らせる村づくり、普段の見回り、冬の雪下ろし支援、これは少しは実現できているかもしれません。午前中も質問ありました。この後の佐藤議員の質問もありますので、あまり深く入りません。後、お隣りネットワークを構築し、安心な暮らしを目指す。

また、原子力関連施設誘致禁止条例の制定。そして、楽、ラの部分です。これは入りを量りて出ざるをなすということで、住民会議の開催、みえる、きける、わかりやすい情報の提供。さらには笑顔が絶えない楽しい世代間交流の実現。そして、ムの部分ですけれども、夢、村、ムが2つ続いています。村づくりは人づくりだ。奨学金制度の拡充、高校通学費用の負担助成、子育ての応援。若い人が故郷に定住できるよう、人に優しい住みやすい村づくり。

選挙の時は、このようなことを訴えていました。

村長職につきましては、いろいろな会議を始めとし、多種多様な行事が多く、激務であることは十分承知しています。それも村政にとっては大事な歯車のひとつではあるかと思えます。

そのような状況の中で、村長自身、この4項目の公約を思い出してもらい、どのぐらい実施、到達出来たと自己評価をしているのか、1人1坪運動の奨励はどうなってしまったのか。過去にはこれに関しては、伊藤議員からの質問もあったように記憶しております。

これまでに提示し実行できたこと、まだ提示されていない事項について、具体的な例を挙げて説明していただきたい、このように思います。

まだあります。村長は、議員から立場を変え行政の立場となりました。議員時代は、住民の立場で行政をみて、視点のズレを感じてきたと言っています。これは村長が議員時代の発言であります。その中で、いろいろなプロセス、方法などを村民からみて納得できる情報を住民に提供することが必要です。

住民の立場から物事を考え、行動し、改善、改革に挑戦していくとも言っていました。果たして実現はできているのでしょうか。

私だけの心配であればいいのですが、私には、立場が変われば、やることも、言うことも違って来るように思えてなりません。さらには、村のイメージアップのため、職員は全員笑顔で明るく、親切に対応するとの約束もありました。これについては顔見知りで知っている人にはそうかも知れませんが、果たしてそうでない人まで徹底されているのかと言えば、残念ながらそうではありません。顔見知りの方とは長い話になりながら、まだ後に待っている方が居るにもかまわず長い話をして、その方を待たせることによって不快感を与えている。このように私には見えました。

最後に、最近では各市町村においては、首長が先頭にたち、いろいろな場所、会社、組織等をかけめぐり、いわゆる、トップセールスという形で、いろいろな販売ルートの開拓、実現という結果を出しているとよく新聞で見ます。先ほど長井議員の話にあったように、道の駅のトップセールスではいけません。

やはり、これからは村長自身、会社経営で培った馬力でブルドーザ級のパワーで村を引っ張って行っていただきたい。

そのためにはもっと村の外に出て、いろいろな官公庁、企業、団体等を訪問し、それなりの結果を出して欲しいと、私はこのように思っております。これに対して、村長の答弁をお願いいたします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 萩野議員のご質問にお答えしてまいりたいと思います。

約2年前ですか、村長選に臨み、自分はこの村に60年間住んでおりましたので、住む、暮らす、楽する、楽しい夢のある村づくりと、この当て字のキャッチフレーズ、スクラムということを考え、そしてそれを公約にして選挙選を戦いました。

村民のため、議会と行政がスクラムを組んで、村民融和の村づくりを目指して頑張ると、そのことで住み続けたいような村づくりを推進していく。そして、それが地場産業を興し、収入が生まれ、暮らしも楽になり、子ども達への夢も生まれることになるのでないのかな。こうした理想郷を思い描いての立候補で、まだまだ道半ばであり、少しずつではありますが取り組みを進めてきておるところでございます。

特に住むための生業は誘致企業など、中山間地域において厳しいのが現状ですが、取り組みを全然してこなかったことでもありませんが、残念ながら実を結ばなかったということと、そしてまた、旧沖田面保育園を活用して進出いただいております東北センバさんであります、10人の雇用を生んでおります。まだ5人ほど求めておりますが、応募がないのが実状でございます。

次に暮らしであります、基幹産業の農業については、今年度、野外試作センターの人員を増員し、ガラスハウス栽培に力を注いでいくように予算も計上しております。また、昨年度から特産の食用ほおずきの出荷補助制度の導入。今年度は地域産業振興として、行政報告でも申し上げましたが、個人事業者や農家に対し、商品開発からPRパンフレット作成や商談会への負担金経費などの補助制度、特産特許や商標登録に要する費用などの補助制度の創設もいたしております。

また林業については、森林資源の活用を目指し、林業専用道2路線が進められており、これらを活用し事業を活発化してまいりたいと考えております。

次にラでありますけれども、安心して暮らせるための雪対策として、昨年度から高齢者の雪寄せ助成制度や各集落への除雪機械の無償貸し付けなど、暮らしを支える政策を行ってきております。しかし、地域の高齢化は、この制度だけではなく、雪寄せ要員も必要になるのではないかと、冬期の雇用制度も検討しております。また、高齢者の買い物支援やおかずの配布事業、IPこあに電話による緊急時のお隣り支援対応など、安心して暮らせる地域づくりを様々な角度から検討しており、そのための予算計上もしております。また、今年度から中学生までの医療費の無料化を推進するための条例改正と予算計上もしております。

これまで、財政の健全化のため基金取崩しに依存しない財政運営を行ってきており、地方債残高は着実に減少し、積立金残高は増加しており、資金繰りにも余裕が見られるようになっております。

次に、人づくりについては、教育育英奨学金制度を3万5千円から5万円に枠を広げ幅広く使用できるように改正しており、また、今後、医師や薬剤師、看護師、保健師など医療職養成奨学金制度の検討も行っており、骨格が固まり次第、議会と相談したいと思っております。

また、小学生の通学定期や特色ある教育活動など、地域の子どもの成長のために大きな期待をしながら、支援もいたしております。

公約の中でまだまだ取り組みの遅れている部分もございまして、今後、そういった面にもう少し力を注ぎながら頑張っていきたいと思っております。

特にこの地域に住んでおまして、今の雪の問題、今日の一般質問でも沢山の方から声がありましたので、もう少し行政で踏み込んで頑張りたいなど

思っております。

あと議員の方からトップセールスというふうなお話もあります。もちろんトップセールスはやりたいわけですが、何を売るのか、売る物はなんですか。まずこれから始めていかなければいけないというのが、私は現状であると思っております。売る物がないのにトップセールスするという事は、私の旅費の無駄遣いと、いうふうになってしまいます。まず、私が公約に挙げた1人1品、1人1坪、これにもう少し力を注がなければいけないと、あらためて、議員のご指摘を受けましたので、これを頑張ってみたいなど、こう思っておりますけれども、これは自分1人で出来るわけではございません。

地域の住民の方が、地域をどういうふうに思って、そして、村をどうやっていくのかと、元気を出していくのか、あまりにも元気が少ないので、よそからの力をかりるという方法を、私は、今現在、そういった形で、上小阿仁プロジェクトを立ち上げております。

地域に元気があって、観光の人が来る、そういう場所であればいいのだけでも、なかなかそういうふうになっていない。私は、いろんなところに出かけて、いろんな立場でものを言う、その中で一番困るのは村を宣伝するという時が一番困るわけです。高齢化は秋田県で一番ですと、私の方は40%を超えている、しかし、千葉県周辺の房総の町村におきますと、高齢化率40%を超えている町や村は一杯あります。上小阿仁は47%と言われますけれども、都会に近いところでも、そういうふうな現状があるということ。ですから、私は、上小阿仁にいても、都会に負けないで、自分方が頑張っていけば負けないでやってくれる、そういう大きな元気を出して頑張っていきたいなど、いつもそう思っております。

12町村、25市町村の中で一番小さな村ですが、意気込みだけは、元気を出して、そしてやるような、私自身が先頭に立って、そういうつもりで頑張っておりますので、今後とも、この公約が実現できるように、皆さんのお力をお借りしながら頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

以上。

○議長（武石善治） 5番、萩野君。

○5番（萩野芳紀） 答弁ありがとうございました。ス、ク、ラ、ムの部分については回答にあったように何点かは実現できていると思います。この辺は素直に評価したいと思います。ただ、やはり私が考えているのは、今も返事がありましたトップセールス、この部分が非常に遅れているのではないかなど、もうひとつ上にでて、働く、動く、走る村長、このような意識をもって、これからは活動してほしいなど、このように思います。

午前中、質問に答弁があったわけですが、これから政権が変わって大きな変化

があるかわからないということがありましたけれども、これはもう既に大きな変化が、株価とか円安とかで表れていますので、株価、円安、上小阿仁でどうい関係があるかと言え、確かに全く関係がないかもわかりません。ただ、日本の景気がよくなってきているということで、上小阿仁も、ぜひ景気のよさに遅れないような政策を、今後は村長にも考えていただきたいと、このあとの質問でまた言いますけれども、次の質問にこのような内容のものも入っていません。ぜひそれはお願いしたいと思います。

あともう一つ、午前中にあった答弁の中で、スピード感のある処理と言っていました、あまりのスピードのあまり独断先行にならないように、村長にはお願いしたい。ゴーイグコンサーンということもありますので、そのような精神でやっていただきたいと思いますので、それを申し添えて、私の1つ目の質問は終わらせていただきます。

ありがとうございます。

○議長（武石善治） 5番、萩野君。

○5番（萩野芳紀） それでは、続きましては、25年度の施政についてお答えいただきたいと思います。

先ほどの質問の続きのようですが、先ほどは前半2年についてですが、次は、25年度を含むこれからの2年について質問します。

過去2年間の評価と反省から25年度は、ス、ク、ラ、ムに基づいた重点且つ具体的な施策にどのような事柄が計画されたか。ここが村長の知恵の見せどころではないでしょうか。それと、明日から予算審査に入るわけですが、予算における戦略的な部分を説明していただきたい。さらには、予算作成にあたって職員の教育指導は、どのように行ったかを説明していただきたいと思います。

村長は、よく職員に知恵を出せと、このようにおっしゃっていると思いますが、どこでも、企業、団体におきましても知恵はまずトップが出すものではないでしょうか。職員の知恵は、トップの知恵に刺激されて出てくるのではないかな、私はこう思っております。また、村長就任以来、多数の職員を採用し、いまだに実現できない誘致企業が役場であった、このような笑えない話さえ聞くこともあります。

将来的には人口減少、高齢化という課題を抱える我が村の経費が、人件費で苦しむという結果になるのではないかと危惧されます。この件につきましては、また、今後の議会で質問したいと思っております。

村長は、多数の村民に支持されてなった訳ですから、知識、見識とも優れた格調ある品性が求められています。村長自らが知識、見識をもって知恵をだし、職員を刺激することにより職員から知恵が出てくるのではないのでしょうか。

職員の知恵はあくまでトップの補完作用をするものであり、先導をするもの

ではないと申し上げます。

私の質問は、ここまでということになります。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 萩野議員の2点目の質問にお答えしたいと思います。なかなか質問の要旨が私の方に伝わってまいりません。何を、トップの知恵が職員の知恵を生むのか、どうもそこらへんの感覚が、私にはわからないわけですが、ただ、まずひと通り質問の要旨に書かれておりますことに従って、答弁書をつくりましたので、それを読ませていただきます。

過去2年間については、過去の施策の政策効果を検証しながら、見直しすべきものは見直しを図ってまいりました。見直しの結果、子宝祝金については、他の自治体と比べ極端な高額となっておりますが、それに見合った政策効果には疑問があるほか、個人に高額の給付をすることに運用上問題点も明らかになってきたことから、減額をいたしました。

また、平成25年度においても、入学祝金の廃止、有償運送・デマンドタクシーの村負担の軽減、利用者の少ない施設の管理の見直し等行っております。また奨学金については、利用者のニーズにあわせ増額を図っております。

村の課題であります定住人口の確保を図るための雇用創出については、企業誘致に取り組んでまいりましたが、製造業の海外移転が進む現在の日本経済の状況や工業団地を持たない村の実態から、困難な状況が続いております。

そうした中、交流人口の増加を図り、地域に賑わいを創出し、それを地域の活性化に結びつけていく施策には、一定の成果がありました。従来からの山野草展のほか、道の駅での「大館・北秋ご当地グルメ秋まつり」には、23年に5千人、24年に4千人の入場があり、道の駅の売り上げ増、村の物産のPRに大きく貢献しました。

また、昨年7月29日から9月19日まで51日間にわたり「大地の芸術祭」の飛び地開催として実施した「KAMIKOANIプロジェクト秋田」は、期間中9千人の人が訪れるとともに、新潟県十日町市での伝統芸能イベントに、小沢田駒踊り、大林獅子踊り、八木沢番楽が出演いたしました。

平成25年度においても、「KAMIKOANIプロジェクト秋田」として、この事業を進めますが、このアートによる地域おこしは、交流人口の創出だけではなく、上小阿仁村の地域イメージを高め、地域を見直す機会となる事業であると思います。より一層住民参加を進め、地域の活性化に結びつけてまいりたいと思います。

平成25年度予算で、地場産業の振興として、個人事業主、新たに事業を展開したいという人に対して補助する制度を創出いたします。商品開発、販路拡大

等に、この補助金を活用し、より多くの方が所得の確保を図っていただきたいと願っております。

予算編成にあたり、職員には、既存の経費の見直し、そして前例にとらわれない施策の立案を指示しております。また、私の公約に沿った予算、それから立案もお願いをいたしております。

以上です。

○議長（武石善治） 5番、萩野芳紀君。

○5番（萩野芳紀） 答弁、ありがとうございました。

私の言いたいことは、先ほどの一番最後に結んだことですが、職員の知恵は、あくまでトップの補完作用をするものであり、職員が先導するものではないと、このようなことを申し上げて、村長はもっと、やはりブルドーザを持っている会社の社長さんでありましたから、それぐらいの馬力をもって、役場の職員、皆さんを引っ張っていただきたいと、このように申し上げたいのでございますので、ぜひよろしく申し上げます。

以上で、私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございます。